

## 第4回 戸塚区品濃町最終処分場検証委員会会議録

日時 平成18年6月22日(木) 午後2時から午後4時35分まで

開催場所 横浜情報文化センター 7階 大会議室

出席者 (委員)

小賀野委員長、高井委員、田中委員、徳江委員  
(横浜市)

局長、副局長、適正処理部長、産業廃棄物対策担当部長、総務課長、産業廃棄物対策課長、適正処理監視指導担当課長、他事務局11名 計18名

開催形態 公開(傍聴者 6人 報道機関 2社)

決定事項 1 次の事項について、事務局が確認調査を行い、次回委員会で報告する。

(1) Kの時期について

- ・指導の状況
- ・測量実施までに時間を要した理由

2 次の事項について、事務局が資料を整え、次回委員会で報告する。

(1) 平成8～13年の現場の航空写真

(2) 業の再許可(平成10年)当時の業許可の基準とそれに対する事案の状況

(3) 施設変更許可当時(平成9年)の施設許可の基準とそれに対する事案の状況

議事 事案の検証(第3回検証委員会確認調査結果、第Ⅲ期及び第Ⅳ期)

(主な意見等)

<第Ⅰ期及び第Ⅱ期の確認調査>

・当時、市内に処分場を確保することを重要視していたようだが、市の方針として明確に位置づけられていたのか。

(事務局回答)本市から排出される廃棄物量は多く、処分場の必要性が認識されており、当時の5か年計画(第3次横浜市産業廃棄物処理指導計画)では、「最終処分場等の施設整備の促進」を目標としていた。

・第1回措置命令が出されていたが、側道建設に伴い廃棄物を移動するために施設の拡大を許可したことは、現実的で合理的な判断だったかもしれないが、結局は次の問題の原因となったのではないか。

・第2回措置命令を分析すると、体系的に矛盾なく対処できていたのか疑問がある。

・措置命令違反で許可取消しにならないのか。

(事務局回答)法令と事案の状況を照合できる資料を用意する。

・Dの時期に何かできなかったのか、疑問が残る。

・行政処分は組織的に対応していたが、指示書はどうだったのか。

(事務局回答)指示書は課長決裁であり、組織的に状況は把握されていた。

<Ⅲ期(K～Q)の検証>

・事業停止(L、O～Q)と4回あるが、搬入状況はどうだったのか。

(事務局回答)第1回事業停止命令の期間終了後も受入れを停止させていた。その後のO～Qの命令期間は連続している。なお、停止指示は事業者からの測量結果報告を受け、翌日の平成12年11月14日に受入れ停止を指示した。これ以降受入れはない。

・事業者報告(平成11年10月13日)にある減容の内容は、減容率が大きく見えるが、実際に

はどうだったのか。

(事務局回答) 最終処分場で通常行われる転圧のほかに、事業者は破砕機を導入していた。しかし、実験どおりに減容が進まない状況だった。

<IV期(R~)の検証>

・G社の関与は、どこまで評価すればいいか、当委員会としての取扱いが課題である。

<報告書作成に向けた意見>

- ・行政指導(口頭・文書)や処分について組織的に対応をするためのガイドラインが必要。判断基準を明示することで段階に応じた指導や処分ができるようになり、再発防止になる。
- ・報告書に施設の土地形状が分かる図面や当時の指導方法や市の方針などの資料をつけたら分かりやすい。

報告事項 1 第3回検証委員会会議録について

- 資料
- 1 法令関係の調査結果
  - 2 確認調査結果
  - 3 検証シート(Ⅲ期、Ⅳ期)
  - 4 第3回検証委員会会議録